事例34　　単元「現代に生きる私達の課題　　－地球環境と私たちの未来－」

ブレーンストーミングを用いた主体的な学習

公民　現代社会　普通科・第１学年
石川県立羽咋高等学校・教諭

１　事例の概要

現代社会大項目（1）は、生徒が具体的な課題を設定して、様々な観点から追究する学習を通して、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚させることが学習のポイントとなる。この点で、地球環境問題は、小・中学校でも学習し、生徒自身の身近な問題としてとらえられており、これまでに得た知識・理解を通して探究的・問題解決的な学習が可能である。また、メディアなどでも多く取り上げられ、生徒達の関心も高く、今後の自分達の生活に照らし合わせて考察することが可能である。このような視点から、この事項を取り上げた。

地球環境問題という大きなテーマの中で、生徒自身が追究可能な課題を設定するためには、様々な方法を用いて手がかりを得る事が大切である。そこで、ブレーンストーミングやＫＪ法的手法を用いて、多くの生徒がアイデアを出し合い、問題点を絞り込んでいき、そこから自分が興味を持った要因について自ら調べ、レポートにまとめるという実践を行った。

なお、この単元は、「現代社会」の学習の導入として年度初めに位置付けられており、生徒同士の関わりを広げるような活動を取り入れることを意識して取り組んだ。

２　実践内容

(1) 単元の目標

①　地球環境問題の要因について考えることにより、人間の様々な活動が自然環境への負荷を増大させ、地球環境の汚染や破壊が問題となっている事を理解する。

②　地球環境問題の解決に向けて国際的な取組や協力が不可欠であることを認識し、同時に自分達の生活の在り方について考える。

③　グループ学習を通して、円滑なコミュニケーション能力の育成と他者理解・自己理解をはかる。

④　調べ学習やまとめ作業を通して、主体的な学びの態度や自己表現力のスキル向上をはかる。

(2)　指導上の工夫点（視点）

①　テーマ設定に際し、その手がかりをブレーンストーミングやＫＪ法的手法を用いて、生徒相互の意見交換の中から、自分が興味を持ったテーマについて自ら調べるようにさせる。

②　グループワークによる学習の特色を生かし、生徒相互の関わりを尊重し、円滑なコミュニケーション能力を高める活動とする。

３　指導の実際（全２時間）

時	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準
1	環境破壊の要因について考える。 （グループ学習）	・ブレーンストーミングによる環境破壊の要因探しを行う。 ・ＫＪ的手法によるまとめ作業を行う。その結果をランキングとしてまとめる。 ・各グループでランキングしたベスト３とオンリー１を発表	・地球環境問題について、小・中学校での学習を基本に、資料集や教科書の記述から、環境破壊の要因について考えるよう問題提起する。 ・ブレーンストーミング、ＫＪ的手法によるランキングにつ	【関心・意欲・態度】 ・学習活動を理解し、活動に積極的に参加したか。 ・グループの一員として協力して活動に参加したか。

		する。 ・他グループの発表を聞き自分達の意見を振り返る。	いて説明する。 ・他者の意見を否定せず、自分達とは異なる見解のあることを理解させる。	【思考・判断】 ・環境破壊の要因について多くの意見を出し合い、絞り込んでいるか。
1	課題設定 課題追究 （個別学習）	・前時にまとめたランキングの中から、各個人が、興味・関心をもったテーマを１つ設定する。 ・選択したテーマについて、レポートをまとめる。	・資料の収集は各自で、図書館、インターネット等を利用し、行う。 ・本時で終了しない場合は、課題とする。	【思考・判断】 ・環境破壊を身近な問題としてとらえ、対応策などについて具体的に考察することが出来たか。
	レポート提出	・Ａ４サイズ１枚に各自の方法でまとめる。		【資料活用の技能・表現】 ４段階で評価　→返却

Ｃ－１　指導案　　Ｃ－２　生徒の様子　　Ｃ－３　生徒のレポート

４　成果と課題について

(1) 成果

①　テーマ設定について

環境問題は小・中学校の学習を通して生徒がこれまでに何らかの知識・情報を理解・習得しているので、その要因について列挙する作業開始時から積極的に活動する様子が見られた。生徒がアイデアを出し合い、絞り込んでいく作業が主体的に行われ、生徒相互の意見交換の中から、新たな気づきや理解が深まった。

②　グループワークの導入について

年度初めの授業開きとして、仲間作り、相互理解を意識してグループワークに取り組んだ。メンバー全員で取り組むことのできるテーマであったこともあり、グループ内の生徒同士の関わり合いも多く、楽しい雰囲気で意欲的かつ自主的な活動となった。

(2) 課題

①　課題追究学習について

生徒の自主性に任せた結果、単に、教科書・資料集をひたすら書き写した生徒等がおり、提出したレポートに大きな個人差が出た。この点で、調べ方・まとめ方に関する共通理解をはかるため、事前学習を行う時間を１時間、確保する必要性を実感した。

また、レポートについては、

ア　必ず記入すべき内容を何項目かあらかじめ決めておく。

イ　生徒自身にレポートに対する自己評価をさせる。

ウ　教室掲示後、生徒同士に相互評価させる。

等の取組を今後の課題としたい。

②　評価について

グループワーク中の活動に対する評価を全員に対して客観的に行うことが難しかった。あらかじめ、チェックリストをつくり、５段階程度に数値化するなどして公平に実施すべきである。その際の項目についても今後の課題としたい。

レポートの評価に関しても、字数制限もなく、手書き原稿やワープロ原稿、新聞記事の切り張りと、多種多様な表現に対して、相対的な評価が難しく、教師の主観による４段階評価を行うに留まった。何項目かの基準を設定し、さらに数値による段階的評価が必要であったと思われる。